

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四 八〇一三

京都市中京区蛸薬師通河原町東入
電話（〇七五）二五三・〇七〇七

『揺れる情（こころ）』通信②⑤

稲荷山武田病院院長 土屋宣之／元京都医療センター外科部長
サツカーワールドカップやオリンピックの柔道において盛んに「やまと魂」や「やまと心」という言葉が使われます。今回はこの「やまと魂」や「やまと心」について宣長さんの考え方を見ていきます。

「やまと魂」や「やまと心」という言葉が上代に使われた形跡はありません。「やまと魂」は源氏物語「やまと心」は後拾遺和歌集が初見です。しかし王朝文学の崩壊とともに文学史から姿を消します。ですから一度消えて、また復活した言葉なのです。

源氏物語では学問という土台があつて「やまと魂」を世間で強く動かすことが出来るし、「やまと魂」は学んで得た「知識」を動かす「知恵」に関係すると言っています。今昔物語では机上の学問に対する生活の知恵、死んだ理屈に対する生きた常識という意味合いで使われています。だからこそ一度消えた言葉が復活したのです。言霊（もののあはれ）は生きているのです。

京都国立近代美術館

7月19日～9月15日

『きもののヒミツ』 友禅の生まれるところ

きものは衣服として人々の身体を彩ってきました。そして表面を意匠で装飾されるきものは、一定の幅の反物を直線縫いで仕立てるため非常に強い平面性をもつ一方で施された多彩な意匠は、衣服として身に纏うことで立体性が生まれます。この平面と立体を行き来するところにデザインされたものはじめから立体裁断で制作していく洋服とは大きく異なるおもしろさがあります。明治以降の京都においては日本画家の構想力や空間構成を活かした新たな染織図案が生み出され斬新なデザインが次々と出現しました。

本展は近世から近代のきものの優品や近世の流行を支えた雛形本などの資料や応挙から始まる京都画壇の展開と染織図案との関わり、図案を染織作品へと応用する過程、染織図案の流行が他の工芸品とも共有するものであったことも紹介。新たな視点から「きもののヒミツ」に迫ります。

『タッチパネル』

常楽臺住職 今小路覚真

携帯電話の画面といわず、買い物支払いといわず、駅の券売機etc、すべて液晶画面です。

たしかに指先一つで多くの仕事をこなしてくれる便利さはありますが、指先を舐めても、こすり合わせても画面は動きません。

しかし、時によると画面に何度触れてもピクリとも動かないことがあります。指先を舐めても、こすり合わせても画面は動きません。

しばらくして触れると思いついたように動いてくれます。自分の携帯を操作しているだけのときは、それで済んでいます。困るのは外出先で、買い物をしたときにこの状態に陥ったときです。

何度画面を指で触れても、画面は動いてくれません。後ろに並んでいた若者が見兼ねて言葉をかけてくれました。言われた通りに操作するのですが、画面はピクリとも動きません。若者が怪訝な様子で覗きまします。「あなたがタッチしてみてください」と声を掛けました。若者が触れたとたん画面は何事もなく進みました。現代の老人の位置を教えられました。

『ワインの法律』

イタシヨク 福村直

イタリアではワインをはじめ様々な食材が国の法律によって厳格に管理されています。法律による管理という堅苦しく思えますが、消費者に対しての品質の保証、そして優良な生産者の地位を守るために存在します。ワインに関しても同じで原産地呼称となります。

古くからワインの名前は地名が多く産地は想像できても品種は？熟成期間は？品質は？と消費者に伝わりにくいものでした。また各々の生産者が勝手な解釈で造るワインが増えたので特徴の純性がなくなりました。そして不誠実な生産者は低品質なワインまで高級ワインを名乗り販売していたため消費者からの信用も落ち、国が管理をしなければ混乱するばかりでした。一部納得できないものもあります。ワイン法は年々ニーズに合わせ少しずつ改定を行い、全体的な品質の維持・向上から見ても必要不可欠であると思います。

健康レシピ

栄養士 國松美也子

『7月レシピ』

茄子は食物繊維も豊富で、カリウムが多く含まれるのでむくみ解消になります♪

『ナスと豚肉の煮物』（2人分）

ナス2本、豚バラスライス50g、大葉1枚：細切り（調味料）みりん大さじ2、濃口醤油大さじ2、砂糖大さじ1

① 茄子は縦半分になり、皮面に斜めに切り込みをいれ、3等分ぐらいに切る。

② 豚バラは3等分ぐらいの長さに切る。

③ 鍋に豚バラを入れ炒める↓火が通れば一度取り出す。

④ ③の鍋を洗わず、そのまま豚肉の油でナスを炒める。

⑤ 茄子がしんなりしたら、豚肉を戻し、水をひたひたぐらいに入れて、調味料を全部入れて煮込む（5分ぐらい）

⑥ 器に盛り付け、大葉を添えて完成☆

『昏るに、日はのこりて』

田村佐起三

ちりめん洋服世界に挑戦① シンガポール

昭和五十四（1979）年「渋谷PARCOで求めた、シンガポールに持ち帰り販売したい」と、毎年三回のさきぞうファッションショーを開催。大反響で販売も好調であったが、昭和六十（1985）年のプラザ合意で海外進出は頓挫しました。シンガポールのリザ・ベルFCは当初場末のマリンホテルで展開、その後グッドウッドパークホテル、シャングリラホテルと広げてゆかれました。

当初降り立った空港はかなりローカルでしたが、数年後には立派な空港に。六年後には世界のハブ空港が完成したのには驚きました。

FCはフランス大使館夫人と懇意になられ毎回ファッションショーが豪華になってゆきました。各ホテルで合計十六回のリザ・ベル主催のさきぞうファッションショー開催しました。